

生活科学研究部会

I 研究テーマ

生活科の特性を生かした活動構成

～人とのかかわりを広げ，結びつきを深める活動の工夫～

II 研究テーマ設定の理由

子どもたちは，周りの大人を驚かせるほどのみずみずしい感性を常にもっている。そしてその一人ひとりの発見やこだわりは，時に私たち教職員をも育ててくれる。子どもたちのもつ「おもい」は毎年同じものではない。その年々の子どもの「おもい」によって生み出された活動を通して，自立への基礎を育てていくことが生活科のねらいである。そこで求められることは，子どもの実態を大切にし，子どもたちが生み出した活動を教職員が一緒になって楽しみながら展開していくことである。教職員自身が「やらされている」・「やらなければならない」という気持ちではなく，「おもしろい」「なるほど」と思うことで，生活科はより楽しい時間となる。

本年度も，自分たちを取り巻く自然や社会などのかかわりを大切にしていきたいという願いのもと，例年通り「教職員も直接体験活動を楽しむ」ことに重きを置き，研究をすすめてきた。私たち教職員には，子どもたちが人生の原体験となるような直接体験活動を重ねながら，人やもの，地域，自然などのかかわりの中で，生きる力を培ってほしいという願いがある。子どもたちの遊び場や自由な時間の減少，遊びの変化が著しい昨今，生き生きとした活動をするためにも，肝心の私たち教職員が人や地域，自然とかかわる楽しさや，探求心，大切にする視点をもつことが求められる。そこで，自然とかかわり，様々な体験を通じた人とかかわりに焦点を当てた活動について考えていくことにした。

また，本年度の生活科学研究会の部員で年間活動計画を話し合った際，研究テーマ「人とかかわり」に重点をおいた実践を報告することを確認し，計画を立てた。

III 経過と内容

1 活動経過

4月10日	部会総会
5月15日	やりたいことを話し合おう
6月17日	体験学習① 「しゃぼん玉をつくって遊ぼう」 県立科学館 実験工作室
8月 7日	生活科実践報告会①
8月20日	生活科実践報告会②
9月 4日	生活科実践報告会③ 県教研レポートの決定

- 10月 2日 県教研レポートの検討
- 11月 4日 県教研環流報告
体験学習② 「秋野菜を使った調理実習」
- 1月27日 年間の総括，来年度の方向性

2 内容

(1) 体験学習

①しゃぼん玉をつくって遊ぼう

②夏野菜を使った調理実習

第一回部会研究会の中で、「おもちゃ作りのアイデアを得て、授業に生かしたい」という願いが出された。県立科学館実験工作室の講師の先生のご指導の下，しゃぼん玉をテーマとし，しゃぼん玉液の調合から，用具作り，遊び方の活動，さらにしゃぼん玉遊びで考えられる事故についての説明も受けた。しゃぼん玉遊びの知識が広まり，遊びでは夢中になり時間を忘れるほど充実した体験学習となった。体験学習ののち，実践にとりいれた学校もあり体験学習をいかしている。また，本部会では例年，「子どもたちが生活科の時間でも取り組むことのできる簡単な料理」についても研究している。今年度は，生活科で育てた秋野菜を子どもたちと一緒に調理したいという要望に応え，山梨大学附属小学校の栄養教諭を中心に，秋野菜の効能を学びながら協力して「子どもと一緒にできる簡単さつまいも料理」を楽しんだ。教職員自らが体験を楽しむという点が本部会のモットーでもあるので，その目的は十分に達成される内容となった。どちらの体験学習も，活動後に生活科の授業で生かすことができ，充実した学習につなげることができた。

(2) 実践報告会の内容

- 内容(1) 学校と生活 「なかよしいっぱいだいさくせん」(羽黒小)
「なかよしいっぱいだいさくせん」(湯田小)
「なかよしいっぱいだいさくせん～がっこうたんけん～」(舞鶴小)
「スマイルフェスティバルで楽しもう」(千塚小)
「1年生となかよくなる会」
～1年生とのつながり，友だちとのつながり～(中道南小)
「合同生活単元学習について」(附属支援)
- 内容(3) 地域と生活 「学校探検・春の八幡神社に行こう」(新紺屋小)
「町探検」(甲運小)
- 内容(6) 自然やものを使った遊び
「どうしつかこうしつか」～ヒラメキ装置～(附属小)
「きせつとあそぼう」～なつだいすき～(玉諸小)
- 内容(7) 動植物の飼育・栽培 「おおきくなあれ わたしのはな」(山城小)

「まいふらわあをそだてよう」～おはなのひみつ～（附属小）

「めざせ生きものはかせ」（池田小）

本部会は低学年に所属する部員だけではなく、特別支援学校の教諭を含む様々な立場、学年に所属する教職員で構成されている。そのため、実践報告の内容は本部会のテーマである「人とのかかわり、結びつき」という観点から生活科の枠を超えて、総合的な学習の時間、生活単元学習における実践など多岐にわたった。実践報告で学習したことを自校の実際に生かすことができた。

IV 研究の反省と課題

研究テーマ「生活科の特性を生かした活動構成」～人とのかかわりを広げ、結びつきを深める活動の工夫～のもと体験活動と実践報告会を大きな柱とし活動をした。

体験活動では、教職員が自ら「しゃぼん玉遊び」「秋野菜の料理作り」の体験を楽しみ、生活科の授業でも生かすことができ、充実した活動となった。こうした部会活動における様々な体験活動を通して、広い視野で物事をとらえ、興味をもって取り組む楽しさを味わうことができた。教師自らが人やものとのかかわりから物の見方が変わったり、様々な気付きをもったりという体験ができた。子どもたちが体験活動を通してどのようなことを感じ、どんなことに気付くことができるのか、身をもって理解することができた。教師自身が楽しむことの大切さを実感し、その気持ちを持ち続けることを再確認した。今後も体験活動を重視し、人との出会いやかかわりを大切に、様々な人から学ぶ姿勢でいろいろなことを吸収する豊かな心をもてるような部会活動を継続していきたい。

また、一人一実践を持ち寄った実践報告会では、「人とのかかわり」に重点をおいたレポートが出され、日頃の授業に生かせる内容が多く、日々の実践に役立つものばかりだった。多くの資料から視野を広げた知識を得ることができた。また、各校の特色を生かした実践を知ることができ、日々の悩みなどを交流することもできた。実践報告会のなかで、悩みや疑問が出されたときなどは、自由に発言できる雰囲気の中、教職員同士のかかわりも深まり、互いの情報を交換する上で有意義な時間となった。生活科を持っていない教師にとっても、生活科の特性を生かした見方や考え方を大切にしながら他教科を教える広がりやつながりがもてたという感想があった。1・2年生での生活科の体験が充実していた児童は、3年生以上になっても感性や表現が豊かであるとの話も出され、生活科も基盤となっていることを確認した。

来年度も体験活動と実践報告会は、継続して部会活動として実施していくこととする。体験活動は、実際の授業に生かすことができ、子どもたちにも還元できる内容を実施したい。さらに、施設見学など視野を広げる活動もおこなっていきたい。実践報告会は、今年度同様一人一実践を持ち寄り知識を広げる活動にしたい。